

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2019年 10月 25日

所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	義村 弘仁

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)		
沖縄県、西表島		
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)		
西表実習		
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)		
2019年 10月 16日 ~ 2019年 10月 20日 (5日間)		
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)		
琉球大学熱帯生物圏研究センター 西表研究施設		
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)		
<p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>本実習では西表島に滞在し、亜熱帯特有の環境や動植物について学んだ。          1 日目は幸島先生による一般向けの講義に参加した。すでに学部・院での授業で幸島先生の研究については知っていたが、改めて研究の幅と内容に驚かされた。          2 日目は雨が降っていたため、午前中は鍾乳洞探検に。車道から藪の中に入っていき、道や照明等何も整備されていない天然の鍾乳洞の中を歩く。西表島の鍾乳洞は石灰岩からできている他の鍾乳洞と異なり、隆起したサンゴ礁からできていることが特徴だ。午後は雨が上がり、カヤックに乗って船浦湾からピナイサーラの滝を目指す。カヤックを降りてからのトレッキングでは渡辺先生や湯本先生に植物を解説していただき興味深かった。帰りは潮が引き、カヤックを引いて歩かなければならなかったが、現れた干潟の上で渡辺先生とコメツキガニを走って追いかける等の楽しみがあった。          3 日目は浦内川を遊覧船で上り、カンピレーの滝までトレッキングをした。道中では湯本先生が様々な植物を解説してくださり、とても勉強になった。朝から曇っていたため天気が心配されたが、午後からは日差しがさし、星砂の浜でシュノーケリングを楽しむことができた。色とりどりの魚たちを見ているとあっという間に時間が過ぎていった。夜には希望者でナイトウォークを行い、サキシマハブや様々な昆虫と出会った。          4 日目は伊澤先生からイリオモテヤマネコの生態や調査方法などを教わった。イリオモテヤマネコの糞を見つけることもでき、非常に貴重な経験だった。また、今回の実習では湯本先生や幸島先生の普段とは違う姿を見ることができた。フィールドにいるときの先生方はとても生きいきとしていて少年のようだった。今回の実習期間だけでは出会えなかった生物や行けなかった場所も多く、また訪れたいと思う。</p>		
		
図1:サキシマキノボリトカゲ	図2:サキシマハブ	図3:イリオモテヤマネコの糞
<b>6. その他</b> (特記事項など)		
<平成26年5月28日制定版> 提出先: <a href="mailto:report@wildlife-science.org">report@wildlife-science.org</a>		